

10月号

OCTOBER 2025

MJIA

M A G A Z I N E



ナマステ・インディア2025会場写真

公益財団法人日印協会

住所：〒102-0083 東京都千代田区麹町1-6 麹町保坂ビル6階

電話番号：03-6272-4408

<https://www.japan-india.com>



世界をつなぐ、あたらしい空へ。



日印協会は、明治36年（1903年）の設立以来、日印間の政治・経済・文化交流に貢献しています。

目次

壮大な賑わいを見せた「ナマステ・インディア」：コロナ禍を超えて深化する日印友好の祭典	4
インド優良企業との提携が導く日本の中堅・中小企業の強みを活かした事業成長	7
「第1回インド・キャリアカフェ」開催報告	12
インド紹介 パンジャープ州	13
インド映画公開情報	15
書籍紹介 高倉嘉男氏『インド映画はなぜ踊るのか』 ～「歌と踊り」の先にある真髄に迫るディープな入門書	17
日印協会からのご案内	18
法人会員一覧	19

インドの良き食文化をお伝えする事が私たちの使命です。（全国配送承ります）



シタルのインドカレー
変わらぬ人気のカレーをそのままのお味で、ご家庭へ。

社長の増田泰観は学生時代、当時九段にあった印度料理アジャンタでアルバイトとして入店し、大学卒業後はコックとして修業を積み、1981年に千葉市で印度料理シタルを創業いたしました。



アルフォンソマンゴードリンク
アルフォンソマンゴーといえばシタル。自信ある逸品です。

社長の増田泰観が情熱を傾けるアルフォンソマンゴーから作る無添加ドリンクです。毎年インドの農園へ行き品質を確認して原料となるマンゴーを輸入しています。



野生黒蜂蜜 ハンティングハー
インド メルガートの自然保護区でハニーハンターによって採集される貴重な蜂蜜です。



おうちでつくれるチャイセット
インドのバザールで飲む味そのまま！おうちで簡単チャイキット。マサラとレシピ付。



味と香りの調を奏でる since1981

印度料理シタル

千葉県千葉市花見川区検見川町 1-106-16
mail : info@sitar.co.jp

■上記以外の商品も多数取り揃えております。

■個人様、企業様向け季節のギフトなどのコーディネートもご相談承ります。

ご注文・お問い合わせは TEL 0120-166-358 <http://www.e-sitar.jp/> へ

壮大な賑わいを見せた「ナマステ・インディア」： コロナ禍を超えて深化する日印友好の祭典

1. コロナ禍を超えて再始動した祭典の意義

■ 祭典の再始動と熱狂：

- ・先日、代々木公園イベント広場にて開催された「ナマステ・インディア」は、文字通り熱狂的な賑わいを見せ、大成功裏に幕を閉じました。秋の爽やかな空のもと、広場はカレーやスパイスの芳香、そして Bollywood 音楽の熱気に包まれ、数多くの来場者で溢れかえりました。
- ・パンデミックによる制限が緩和されて以降、これほど大規模かつ開放的な形でインド文化の祭典が開催されたことは、極めて象徴的です。このイベントは、単なる異文化交流の場を超え、長らく続いた社会的制約から解放され、改めて両国の絆を確かめ合う「再始動の祝祭」としての大きな意義を帯びていました。

■ 日印友好の原点：

- ・本祭典は、日本とインドの文化交流と相互理解を深める最大の機会であり、特に「ナマステ・インディア」が持つ、市民レベルでの「草の根の友好」を育むという原点に立ち返った年であったと言えるでしょう。



2. ステージで躍動したインドの多様性

■ ステージが示す「多様性の国」：

- ・メインステージは、インドが誇る広範な地理的・文化的広がりを見事に映し出す鏡となりました。プログラムはバラエティ豊かで、一つの「インド」ではない、多様な地域色と伝統が尊重されている点を改めて確認できました。

▪ 古典芸術の深淵:

- ・ 荘厳な調べとともに披露された**古典舞踊**は、観客を古代インドの精神世界へと誘いました。例えば、南インドのタミル・ナドゥ州に伝わる**バラタナティヤム**の精緻な手の動き（ムドラ）と、北インドの**カタック**の軽やかな足のステップは、その優雅さの中に厳格な修行の積み重ねを感じさせます。また、シタールやタブラが奏でる古典音楽（ヒンドゥスターニー音楽）の奥深い音色は、会場の喧騒を忘れさせるほどの静謐な集中を生み出しました。

▪ ボリウッ드의熱狂と現代性:

- ・ 一方で、若者や家族連れを熱狂させたのは、鮮やかな衣装とダイナミックな振り付けが特徴の**ボリウッド・ダンス**です。そのエネルギーは観客席にも波及し、会場全体が一体となってリズムに乗る熱狂的な空間となりました。これは、伝統文化だけでなく、「今」のインド社会で流行し、進化し続ける大衆文化の力を示すものでした。

3. 地域色豊かなインド料理の魅力

▪ 五感を刺激する屋台の活気:

- ・ 代々木公園のイベント広場を「食の回廊」に変えたフードブースの熱気は、まさにインドの市場そのものでした。立ち込めるカルダモン、クミン、ターメリックなどの複雑なスパイスの香りが、来場者の五感を強く刺激しました。

▪ 「カレー」を超えた多様な食文化:

- ・ 来場者の多くが認識する「インド料理」は、往々にして北インドのバターチキンカレーやナンに代表されます。しかし、この祭典では、その認識を遥かに超える**地域多様性**に触れることができました。
- ・ 南インド料理のブースでは、米粉を発酵させて作る薄焼きクレープドーサや、タマリンドの酸味が効いた汁物ラッサムなど、日本の食文化に近い「米」を主食とする文化圏の洗練された味わいが提供されました。
- ・ ストリートフードのブースは特に人気が高く、サクサクの皮にスパイシーなスープを注ぎ込むパニプリや、豆とジャガイモを使った軽食チャットには長蛇の列ができました。これらの料理は、インドの活気ある日常の風景をそのまま日本に運び込んだかのようなようでした。

▪ ローカライズの知恵:

- ・ また、日本でのインド料理店の多さから、ベジタリアンと非ベジタリアン（特に豚・牛の不使用）への対応が完璧になされており、**宗教上の食の制約**に対する理解と柔軟性が、日本におけるインド料理の受容度を高めている要因の一つであると再認識させられました。

4. 未来へつなぐ日印関係への期待

▪ 市民交流の重要性:

・「ナマステ・インディア」は、ビジネスや外交といった「国と国」の関係だけでなく、文化、食、芸術を通じた「人と人」の関係を深める上で、不可欠なプラットフォームです。

・会場では、サリーやクルタなどの伝統衣装を試着したり、ヘナタトゥーのブースで体験したりする日本人と、流暢な日本語で日本の来場者と交流するインド人の姿が随所に見られました。こうした草の根の交流こそが、日印両国が掲げる「特別な戦略的グローバル・パートナーシップ」を支える強固な土台となると確信します。

▪ 次なるステップへの期待:

・この熱気が、今後、ビジネス、技術、教育など、さらに多くの分野での協力へと繋がっていくことを期待します。この祭典を通じて触れた、インドの多様な文化と、人々の温かいホスピタリティは、私たちの相互理解を一段と深める貴重な経験となりました。来年以降も、この素晴らしい祭典が継続し、日印友好の灯を力強く燃やし続けることを心より願ってやみません。

5. 祭典を支えた陰の立役者の皆様への感謝

最後に、ボランティアスタッフの皆様の多大なご貢献について、心からの敬意を表したいと思います。

主催者側の尽力だけでは、「ナマステ・インディア」をこの規模で成功させることはできません。

会場の秩序は、ゴミの管理、トイレの清掃といった目立たない細部への配慮から保たれています。また、イベント本部による円滑な運営、前日からの設営と終了後の撤収作業を担う体力的なサポートも欠かせません。そして、昼夜を問わず、夜間の警備会社とは別の協力体制で会場警備に携わったグループの方々のご尽力があってこそ、来場者の安全と祭典の現場が守られています。



「ナマステ・インディア」は、まさにボランティアスタッフの皆様の献身的な協力があってこそ成立する祭典であり、そのご貢献に深く感謝いたします。

インド優良企業との提携が導く 日本の中堅・中小企業の強みを活かした事業成長

～既存のサプライチェーンの枠を超えた、戦略的パートナーシップ～

望月奈津子（個人会員）

私は、仕事として日本企業のインド進出や協業のコンサルティングと支援プロジェクトに携っております。その過程で日本側の現状や課題も深く理解するようになりました。社内のインド出身メンバーからの情報や助言、社外パートナーとの日々のやりとりを通じて、日印協業に関する知見やノウハウも積み重ねてきました。日印協会の個人会員という立場ですが、こうした経験を法人会員の皆さまにも共有してお役立ていただきたいと思います、今回寄稿の機会をいただきました。



「インド最大のモビリティ見本市：
Bharat Mobility Global Expo
2025年1月デリーにて」筆者撮影

1.現場で感じた「可能性」と「日本への期待」

インドを初めて訪れたのは約20年前。それ以来、プライベートな旅も含めて50回以上現地に出向き、企業や工場、大学、研究施設、政府機関などを訪問し、プロジェクト支援や調査活動を通じて、インドの現場に足を運んでいます。現地専門家との協働に加え、友人宅での滞在を通じて、生活のリアルな一面にも触れてきました。現地の変化のスピード、意欲あふれる人々、そして日本に対する期待感を、驚きと希望と共にいつも感じています。

「インドの優良企業との提携が、日本の中堅・中小企業にとってどのような事業機会をもたらすのか」、そして「その協業が日本の産業全体にどのような波及効果を生むのか」——現場の温度感とともにお伝えします。

なお、今回は日本が得意とし、インドが国を挙げて最も力を入れている分野のひとつである製造業を例に話を進めます。

2. インド進出の第一歩：中堅・中小企業が踏みだすための視点

インドでは「Make in India」政策のもと、製造業の高度化と海外企業との連携が加速しています。半導体、エレクトロニクス、EVや自動車部品、工作機械、医療機器、家電、再生エネルギーなど、成長分野は幅広く、政府による外資規制の緩和や税制の見直し、製造業向けの補助金制度も整備されています。こうした動きにより、インド市場で新しいビジネスを展開する機会は、これまで以上に広がっています。

一方で、日本の中堅・中小企業は、海外進出に慎重な姿勢が根強く残っているのが現状です。特にインドは情報収集の難しさやリスクの見極めが課題となりやすく、加えて日本側では資金や人材などのリソースにも制約があります。そのため、従来のサプライチェーンに沿った展開を前提とする企業も少なくありません。

しかし、今こそ既存の枠組みにとらわれず、インド企業との直接的な協業を検討

するタイミングだと考えます。インドのパートナーと手をたずさえることで、販路拡大だけでなく、事業成長のための新しい選択肢を得ることができます。

3. インド中堅企業の底力：サプライチェーンの中核

優良なインド中堅企業は、グローバルサプライチェーンの一翼を担い、地元大手はもちろん、欧米やアジアの大手企業と対等に取引を行っています。Tier1・Tier2サプライヤーとしての実績、国際認証の取得、現地工場の運営、豊富な人材育成、グローバル市場への理解、自社開発力と設計力、投資の準備、リスクを取って新分野にチャレンジする意欲など、多様な強みを有しています。こうした企業は、インド国内生産をめざす海外企業からも大きな注目を集めているのです。

私は、優良なインド中堅企業に共通する3つの特徴に着目しています

(1) 最新の現地ニーズや業界のしくみ・動きを理解している

顧客ニーズ、市場や業界の最新動向を把握し、変化に柔軟に対応しています。現地独自のニーズや事業環境にマッチする製品やサービスづくりが容易になります。

(2) 現地行政とのネットワークがあり、規制の深い理解や実際の施行を把握している

行政や業界団体との強いネットワークを持ち、法規制や手続きにも精通し、海外企業との事業展開を円滑に推進できます。

(3) グローバルな基準でのビジネス慣行に対応できる

国際認証やグローバル企業との取引実績があり、世界標準の品質管理や運営力を備えており、安心して協業できます。

4. インドのサプライヤー企業の本音：日本企業に求める「共創」の姿勢

インドの優良なサプライヤー企業が日本の中堅・中小企業に本当に求めているのは、単なる技術や顧客の獲得ではありません。彼らが望んでいるのは、長期的なビジョンを共有し、共に成長できるパートナーシップです。日本企業の持つ優れた製造技術や開発力を通じて、自社の競争力を高めたいという意欲を持ち、また日本企業との協業による信用力の向上も期待しています。

(1) 現地で事業展開する大手企業のニーズ

こうした背景には、インドの産業構造の変化があります。モビリティ産業では、現地の人々のライフスタイルの変化や環境規制、事業環境の変化に合わせて、新しい部品やサービスの開発が活発で、市場拡大が続いています。スズキは、2030年に400万台超の生産を目標に掲げています。生産能力の向上だけでなく、EVなど新分野の研究開発や新たな顧客層の開拓にも力を入れています。調達先や協業先の現地サプライチェーンに属する中堅・中小企業は、この動きに関心を寄せています。実際、このような業界のリーディング企業からは新しい製品や技術について具体的な相談や打診が来ているというインドのサプライヤー企業の声を現場でよく聞きます。

自動車関連だけでなく、鉄道分野でも同様の動きが見られます。現地のサプライヤー企業は、高速鉄道開発の最新動向をいち早くとらえ、将来のプロジェクトに備えて技術力を磨き、高度な技術を持つ海外企業との連携にも力を入れ始めています。

（２）現場で感じる日印協業の可能性

私は実際のプロジェクトとしての日印協業や進出支援に加え、見本市への参加や視察、100社を超えるインドのサプライヤー企業、インド工業連盟などの支援団体や自動車部品/工作機械などの協会のリーダーの方々と面談を重ねてきました。多くのインドのサプライヤー企業が日本の中堅・中小企業との連携に強い意欲を持っていることを実感しています。現場での生の声や実際の取り組みを通じて、インド企業の本音と日印協業の秘められた可能性を肌で感じています。

5. 協業が生む3つの力：技術・市場・スピード

インドの優良サプライヤー、特に中堅企業との協業は、日本の中堅・中小のサプライヤー企業にとって具体的なメリットが想定しやすいです。これらの企業は、短期的な売上だけでなく、中長期のコミットメントやリスクを取る意志、具体的な投資体制を持っています。日本企業にとって、販路拡大や設備投資、現地ネットワークの活用、共同研究など、事業に必要なリソースを協業相手からも得られます。

また、連携の形（販売代理店、OEM、共同開発、ライセンス、合併事業など）や協業ステージの進化にも柔軟に対応できる場合が多く、小規模な取りくみから始めて、現地での販売を軸にした事業拡大や、現地生産・グローバル供給体制の構築など、中長期的な活動の実現可能性が高まります。

以上をまとめた主なメリットは次の3点です。

（１）技術の補完と融合

例えば、日本の精密加工技術とインドの量産力を組み合わせることで、競争力の高い製品が生まれます。工作機械や自動車部品での一例として、日本の高精度部品とインドのコスト競争力を融合させることで、国内外市場に対応する製品を開発しやすくなります。

（２）新しい市場へのアクセス

インドは人口14億人を超える巨大市場です。現地企業との提携によってインド国内の販路を確保しやすくなるだけでなく、インドを拠点とした第三国展開（中東、アフリカなど）も視野に入ります。

（３）スピード感のある事業展開とリスク管理

単独での進出は資金・人材・情報面で負担が大きいです。現地パートナーとの協業により、リスクを分散しながらスピード感を持って事業を進められます。既存の顧客基盤や業界・行政とのネットワークも活用できます。初期段階では、販売委託やOEMなど柔軟性を持った展望が開けます。

6. 現場からの声：日印協業のリアルな3事例

私が関わってきた、また現在検討中の日印の中堅・中小企業協業への支援事例をいくつかご紹介します。

事例1：インド自動車部品メーカーとの協業

製造業が盛んなプネに本社を置くインドの中堅自動車部品メーカーは、現地大手や外資の自動車メーカーに部品を供給しています。既存の顧客企業から、より高いグレードの製品の新たな供給を打診され、技術力や生産体制の強化することを決めました。土地や工場はすでに準備し、量産体制も整っています。日本のパートナーと組んでその既存顧客向けの新しい高グレード製品の生産交渉を



インド最大の工作機械見本市のオープニングセレモニー：
IMTEX 2025年1月 ベンガルールにて 筆者撮影

進める一方、その製品の新たな販路拡大も始めています。日本側では、どのような長期ビジョンを持ち、どのような協業形態をとるのが良いかを慎重に検討しています。

事例2：日本の半導体関連メーカーの挑戦

日本の中堅企業が、現地の顧客ネットワークを持つインド企業と連携し、まずは第三国の自社工場で生産した製品をインド市場で販売することから事業をスタートします。現地パートナーはファミリー企業であり、第2世代が積極的に新規事業や海外分野を任されており、スピード感を持って展開しています。インド国内に複数の工場を持ち、ソーラーパネル等による電力活用し、国際基準も取得済です。日本側は、現地パートナーと共に新たな顧客開拓を行いながら、インド市場での事業基盤づくりを始めています。将来的には、現地での自社工場設立や共同開発などの投資も視野に入れ、段階的な事業拡大を視野に入れています。

事例3：インド中堅部品メーカーの挑戦

グジャラート州ラージコートに本社を置く中堅メーカーは、医療、工作機械、自動車など多様な分野の部品製造を40年以上の実績があります。最近、生産性と品質向上のために日本企業のロボット導入による自動化の検討を始め、価格競争力のある他国を視察しましたが、最終的には技術や信頼のおける日本からロボットを購入し、カスタマイズや技術支援を受け、パートナーとして連携を希望しています。現在は、パートナーとなる日本企業の要件定義作成に着手し、連携に向けて具体的な準備にはいりました。将来的には自動化ロボット向けの部品生産にも意欲を持っています。

これらの事例からも分かるように、日印のサプライヤー同士が協業することで、現地ニーズへの対応力や技術力の向上、新たな事業機会の創出につながっています。

7. 成功のカギは「誰と組むか」：現地のパートナー選定

インドでのパートナー選びは、企業の進化が速く、数も多く、地域も広大なため、非常に難しい課題です。地域ごとに産業や企業文化が異なり、自社に合う企業を見つけるには、単なる紹介や表面的な情報だけでは不十分です。

重要なのは、財務指標に表れない現場力や成長意欲、経営者の姿勢など、企業の本質を多面的に見極めることです。将来に向けてどんなビジョンを持ち、どのよ

うな成長を目指しているかも丁寧に確認するのがよいでしょう。

実際、成功している企業は現地調査会社や信頼できるインド人の目利きを頼りにし、綿密な現地調査を着実にを行っています。逆に、紹介だけに頼った結果、プロジェクトがうまくいかなかった例もたくさん見てきました。中堅・中小企業がインドでの協業を成功させるには、現地専門家の力も借りながら、企業の本質や将来性までしっかりと見極める姿勢が求められているのではないのでしょうか。また、インド側が日本と連携する際も同様です。

8. 結びに

インドとの協業は、日本の中堅・中小企業にとって、これまで以上に現実的な選択肢となっています。「Make in India」政策のもと、製造業の高度化や外資系企業との連携が進み、現地の優良な中小企業は日本企業との協業にも強い関心を寄せています。現場では日本の技術力や現場力が高く評価され、長期的なビジョンを共有できるパートナーとして、日本の中堅・中小企業に期待が集まっています。



インド中堅メーカーと商談：
自動車部品の見本市デリーにて

多くの日本の製造業企業は、既存のサプライチェーンの枠組みの中で事業を展開してきました。しかし、インドの成長市場では、従来の枠を超えた戦略的なパートナーシップが新たな可能性を生み出しています。サプライチェーンの中核を担う企業同士が直接連携することで、これまでにない技術の融合や新しい市場へのアクセス、事業展開のスピードアップなど、さまざまなメリットが生まれています。また、サプライチェーンのキャスティングボードを握る業界のリーダー企業の皆様には、中堅・中小企業に対して、自社の考えや現状、そしてビジョンを積極的かつ具体的に共有していただくことが、今後の産業全体の発展を導きます。日本の中堅・中小企業のサプライヤーがインドのサプライヤー企業と連携することは、現状のサプライチェーンの枠組みを超えることだという日本側の懸念を払拭し、第一歩を後押しすることになります。日印のサプライヤー同士が取り組むことで、インド現地で操業する日本企業の競争力も高まり、さらにアジアやグローバルレベルでのサプライチェーン強化にも寄与します。こうした動きが、日印両国の産業競争力向上につながると信じています。

インド市場は広大で変化も速く、企業ごとに文化やビジョンも異なります。新しい市場への挑戦には不安もあるかもしれませんが、現地の事情や産業構造を理解し、信頼できる現地パートナーと協力しながら、一步ずつ着実に進めていくことで、事業の可能性は大きく広がります。現地調査や専門家のサポートを活用しながらインド進出した日本はじめ海外企業が、着実に成果を上げています。

私も、インド出身のグローバルなビジネス経験を持つ社内メンバーとともに、現地調査やパートナー選定、事業推進まで幅広く支援しています。

今後は企業全体としても実績を積み、より力をつけて日印協会の法人会員をめざし、皆さまでも直接つながって貢献したく思っております。

学生限定 「第1回インド・キャリアカフェ」開催報告

日印協会は、去る10月17日（金）17時より、協会会議室において、学生限定イベント「第1回インド・キャリアカフェ」を開催いたしました。

記念すべき第1回目となる今回は、スズキ株式会社 エグゼクティブフェロー（前副社長）の鮎川堅一氏を講師にお招きしました。インドでの就職やキャリア形成に強い関心を持つ大学生7名が参加し、約2時間半にわたり、講演、活発な質疑応答、そして和やかな懇親会が行われました。

日印協会事務局は、今後も法人会員様と学生の皆様を繋ぐ強力な架け橋となるべく、「インド・キャリアカフェ」を第2回、第3回と継続的に開催してまいります。つきましては、学生会員のキャリア形成を応援してくださる、インドでの駐在経験やビジネス経験をお持ちの法人会員様（講師候補）からの積極的なご連絡をお待ちしております。次世代の日印交流を担う若者の育成に、ぜひご協力をお願い申し上げます。



Mango

Coffee

Shop in New Delhi

インドの「おいしい」「安全」を 日本へお届けしつづけ、24年。

元ネルー大学教授 プレム・モトワニ氏がメールマガジンにてインドからお届けする「インドの今」。
ご登録は、マカイバリジャパンのホームページから。 www.makaibari.co.jp

有限会社マカイバリジャパン（マカイバリ茶園アジア・日本総代理店）
東京都中野区沼袋 4-38-2 Tel: 03-5942-8210 Fax: 03-5942-8211 makaibari_japan@tea@makaibari.co.jp www.makaibari.co.jp
ISHII TRADING PRIVATE LIMITED (インド会社) india_happyhunter@ishii.co.in
E52 Hauz Khas Main Market, New Delhi-110016, INDIA

ガネーシャ通信

パンジャーブ州

概要

- * 州都：チャンディーガル
(連邦直轄地、ハリヤナ州の州都でもある)
- * 人口：2, 774万人 (2011年国勢調査)
- * 面積：5万362km² (県 (District)：23)
- * 識字率：75.8% (男性80.4%、女性70.7%)
- * 宗教別人口比率：シク教 (57.7%)、
ヒンドゥー教(38.5%)、イスラム教(1.93%)、
キリスト教 (1.26%)
- * 主要言語：パンジャーブ語 (州公用語、89.8%)、
ヒンディー語(7.9%)
(2011年国勢調査に基づく)



政治

(1) 州政府

- * 州知事：グラブ・チャンド・カタリア (Glub Chand Kataria) (2024年7月～)
- * 州首相：バグワント・マン (Bhagwant Mann) (AAP) (2022年3月～)

(2) 州議会：一院制 (定員：117、2027年3月任期満了)

- * 与党：庶民党 (AAP) 92議席
- * 野党： kongress党 (INC) 18議席、シロマニ・アカリ党 (SAD) 3議席、
インド人民党 (BJP) 2議席

(3) 概況

2012年－2017年は、シク教徒中心の地域政党であるSADが政権を担い、2017年－2022年は、INCが政権を担ったが、2022年州議会選挙では、AAPが大勝し、バグワント・マンを州首相とする政権を樹立。2024年連邦下院選挙では、同州割当13議席中、INCが7議席、AAPが3議席、SADが1議席、無所属が2議席を獲得。連邦政府与党BJPは、2022年州議会選挙で6.6%の得票、2024年連邦下院選挙では18.6%の得票（獲得議席は無し）をあげている。

経済・産業

(1) 主要指標

- * 名目州内総生産(G S D P)：8 兆 3, 8 6 4 億ルピー (2 0 2 4 年度)
- * 1 人当たり所得 (名目 G S D P 計算)：2 5 万 3, 3 1 7 ルピー
- * 実質 G S D P 成長率：6. 1 2 % (名目 G S D P 成長率：8. 6 7 %) (2 0 2 4 年度)
- * 州内総付加価値 (G V A) 構成比：

第一次産業	2 3. 3 4 %
第二次産業	2 8. 2 3 % (うち製造業 1 6. 4 6 %)
第三次産業	4 8. 4 3 %

(2) 概況

1 9 6 0 年代後半から「緑の革命」を推進したインド随一の穀倉地帯であり農業先進州であるが、1 9 9 0 年代以降、インドでの経済自由化が進む中で、農業に大きく依存した S G D P 成長率は芳しくなく、1 9 8 1 年にインド全州中トップであった 1 人当たり所得は、2 0 2 0 年には 1 6 位に後退した。しかし、良質の綿花の生産地でもあり、繊維産業を中心に第二次産業も発展してきており、今日、インドのウール・ウェアの 9 割以上、ミシン・縫機 8 割以上、スポーツ用品の 7 割以上を生産している。

(3) 進出日系企業：3 社、7 6 拠点 (2 0 2 4 年 1 0 月現在)

観光・その他

(1) パンジャープとは「5つの水」という意味。サトレジ、ビラス、ラビ、チェナブ、ジェーラムの 5 河川流域の地方で昔から農耕が盛んで、住民の殆どはパンジャープ人（宗教は異なってもパンジャープ語を話す人々）であった。

(2) 1 9 4 7 年のインド・パキスタン分離独立により 2 分割（ヒンドゥー教徒の多かった東側はインドに、イスラム教徒の多かった西側はパキスタンに）され、その際に、インド側に居住していたイスラム教徒がパキスタン側に、パキスタン側に居住していたシク教徒とヒンドゥー教徒がインド側に大移動、移住した経緯がある。

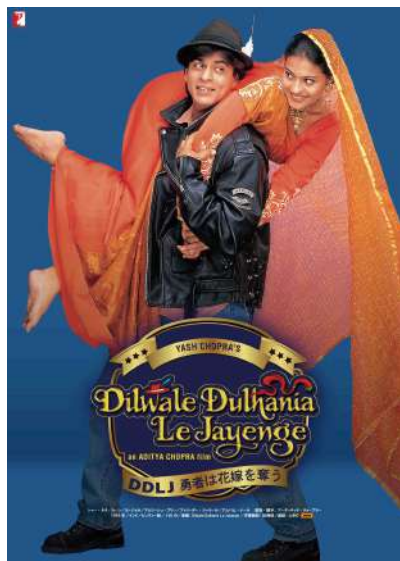
(3) パキスタンとの国境に近いアムリットサルには、シク教総本山の「黄金寺院」があり、シク教徒巡礼者ばかりでなく、国内外からの観光客を集めている。

(4) パンジャープ州とハリヤナ州が州都とする連邦直轄地チャンディーガルは、1 9 5 0 年代にフランス人都市計画・建築家のル・コルビュジェ等によって設計された計画都市で、高等裁判所、議会、行政庁舎、その他モニュメントが集まる「キャピトル・コンプレックス」（首都複合施設）がル・コルビュジェの建築作品群として世界遺産登録されている。

<インド映画公開情報>

DDLJ 勇者は花嫁を奪う

インド映画史上に燦然と輝く不朽の名作、1週間限定公開



ロンドンに暮らすシムランは、友人とのヨーロッパ旅行で、陽気で自由奔放なラーズと出会う。旅を通じて二人は心を通わせていくが、シムランにはすでに父が決めた婚約者との結婚と、インドへの帰国が決まっていた。シムランへの思いを断ち切れないラーズは、彼女を奪うのではなく、家族に認められる道を選ぶ。果たして彼はシムランの父の心を動かし、愛を貫くことができるのか？ 本国公開30周年と、主演のシャー・ルク・カーン生誕60年を記念して、10月31日（金）より1週間限定公開。池袋HUMAXシネマズでは、字幕翻訳を手がけた松岡環氏（アジア映画研究者）によるトークイベントが10月31日（金）に開催される。

監督・脚本：アーディティヤ・チョープラー

出演：シャー・ルク・カーン、カージョル、アムリーシュ・ブリーほか

原題：Dilwale Dulhania Le Jayenge

配給：JAIHO

1995年／インド／ヒンディー語／190分／映倫区分：G

© YASH RAJ FILMS PVT. LTD.

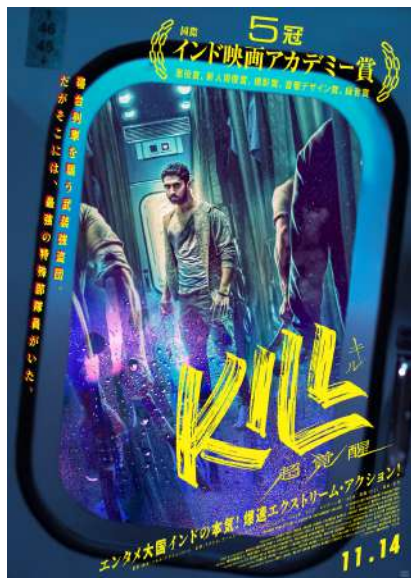
10月31日（金）より、池袋HUMAXシネマズ（東京）、塚口サンサン劇場（兵庫県）にて1週間限定上映

▼劇場HP（池袋HUMAXシネマズ）

<https://www.humax-cinema.co.jp/ikebukuro/>

KILL 超覚醒

エンタメ大国インドの本気、爆速エクストリーム・アクション！



ランチャー発ニューデリー行きの特急寝台列車が、40人の武装強盗一族に襲撃された。刀を振りかざし、乗客から根こそぎ金品を奪う一味の強欲なリーダー、ファニは、大富豪タークルとその娘トゥリカに目をつけ、身代金目的の誘拐をもくろむ。しかしこの列車には、トゥリカと永遠の愛を誓い合った対テロ特殊部隊の隊員アムリトも乗り合わせていた。軍隊仕込みの格闘術でトゥリカとその家族を救出したアムリトは、圧倒的に数で勝る敵との全面戦争になだれ込んでいく。第48回トロント国際映画祭ミッドナイト・マッドネス部門でのワールドプレミアを皮切りに、世界各国の映画祭を席巻し、インドの主要な映画賞も多数受賞した。『ジョン・ウィック』シリーズのチャド・スタエルスキ監督によるプロデュースでハリウッド・リメイクも決定している話題作。

脚本・監督：ニキル・ナゲシュ・バート

出演：ラクシャ、ターニャ・マニクタラ、ラガヴ・ジュヤル、アシーシュ・ヴィディヤルティほか

原題：KILL

2024年／インド／ヒンディー語／105分／映倫区分：R15+

配給：松竹

© 2024 BY DHARMA PRODUCTIONS PVT. LTD. & SIKHY A ENTERTAINMENT PVT. LTD.

11/14(金)公開

<https://movies.shochiku.co.jp/kill/>

マーク・アントニー

捲土重来、改ざん上等！ 極彩色の満願成就ムービー



過去の人と通話ができる不思議な電話機を手に入れた自動車修理工のマーク。この電話機を巡り、彼の育ての親でギャングの親分であるジャッキー、その息子マダン、マークの亡父アントニーまでも巻き込み大騒動が巻き起こる。時をさかのぼって過去を書き換えようとする“運命編集集合戦”の行方やいかに!? タミル語映画界で人気と実力を兼ね備えたヴィシャールと、『ジガルタンダ・ダブルX』や『政党大会陰謀のタイムループ』で日本でも人気の“モンスター俳優”S・J・スーリヤーが共演。「インディアンムービーウィーク」などでの上映が話題となり、公開に至った1作。

監督・脚本：アーディク・ラヴィチャンドラン

出演：ヴィシャール、S・J・スーリヤー、リトゥ・ヴァルマ、スニールほか

原題：Mark Antony

2023年／インド／タミル語ほか／149分／映倫区分：G

配給：SPACEBOX

© Mini Studio © Ayngaran International

11/21(金)公開

<https://spaceboxjapan.jp/markantony/>

編集：印度映画広報室

『佐藤忠男、映画の旅』



日本を代表する映画評論家、佐藤忠男の人生を語るドキュメンタリー映画。佐藤が学長を務めた日本映画学校（現日本映画大学）で教え子であった寺崎みずほが2019年より密着。後年はライフワークとしてアジア映画を発掘し、日本に先駆的に紹介する活動も行っていた佐藤が「世界で一番好きな映画」と言い残したインドのケーララ州でつくられたマラヤーラム語映画『魔法使いのおじいさん』（G.アラヴィンダン監督）への想いなど、生前のインタビューや世界の映画関係者の証言から、観客と共に佐藤の“たからもの”を探す旅に出る。第38回東京国際映画祭「アジアの未来」部門特別オープニング作品。

監督：寺崎みずほ 出演：佐藤忠男、秦早穂子、イム・グオンテク、シャージ・N・カルン ほか 製作・配給：グループ現代 英題：Journey Into SATO TADAO 2025年/98分/日本

©GROUP GENDAI FILMS CO., LTD. 佐藤忠男写真©朝日新聞社

11月1日（土）新宿K's cinemaより全国順次公開

<https://satotadao-journey.com/>

情報提供：株式会社グループ現代

＜書籍紹介＞



『インド映画はなぜ踊るのか』 ～「歌と踊り」の先にある真髓に迫るディープな入門書

書名インド映画はなぜ踊るのか

著者 高倉 嘉男

出版社作品社

発売日2025年10月8日

造本（仕様）四六判 並製 ページ数400ページ

定価（本体）2,700円 + 税

高倉嘉男氏の著書『インド映画はなぜ踊るのか』は、長年にわたり2000本以上のインド映画をレビューしてきた著者の深い洞察と愛情が詰まった、待望のインド映画入門書です。表題が示す「踊り」に留まらず、インド映画を観る者が抱くであろう9つの「なぜ？」に、多角的なアプローチで迫ります。

＜本書の内容と特徴＞

本書の最大の特徴は、一般的な作品紹介や流行の解説に終始せず、インド映画の根幹をなす美学や文化的な背景を深く掘り下げている点です。

「なぜ？」への徹底的な追求: 「なぜ踊るのか」だけでなく、「なぜ恋愛が一筋縄ではないのか」「なぜキスシーンが少ないのか」など、日本人にとって不思議に感じられる習慣や表現の背景を丁寧に解説しています。

「ラサ理論」による美学の提示: 特に重要なのは、しばしば「嘘っぽい」「安っぽい」と指摘されがちなインド映画の表現を、インド文芸の根幹をなす「ラサ理論」という古来の芸術理論を用いて正当化・評価している点です。これにより、単なる娯楽映画としてではなく、独自の評価基準を持つ一つの芸術形態としてインド映画を捉え直す視点を提供します。

ライブ感のある解説: 客観的なデータや事実の羅列だけでなく、著者が現地で得た体験や実感がアクセントとして随所に散りばめられており、読者はインド映画の「現場」の空気感や熱量をリアルに感じることができます。

ディープでありながら入門的: 内容は学術的・専門的な側面も含みますが、「まえがき」にあるように、インド映画を観て心に湧き起こる素朴な疑問から論を展開しているため、初心者から熱心なファンまで楽しめる構成となっています。

＜評価ポイント＞

本書は、近年の『バーフバリ』や『RRR』などのヒットによりインド映画に関心を持った層にとって、「歌と踊り」という表面的な特徴のその先にある、奥深い世界への扉を開く鍵となります。

「なぜインド映画はインド映画なのか」という本質的な問いに対し、文化、歴史、そして美学の側面から明快な答えを与えてくれます。作品紹介ではないため、ネタバレを避けて結末まで論を進める姿勢は、インド映画の構造そのものを理解したい読者にとっては非常に有益でしょう。

＜まとめ＞

インド映画への深い愛と知識に裏打ちされた、誠実で情熱的な一冊です。インド映画を「なんとなく面白い」で終わらせず、「なぜ面白いのか」「なぜそうなっているのか」を深く知りたいと願うすべての人に強く推薦します。

日印協会からのご案内 ～会員交流会～

《日 時》 2025年11月21日(金) 18:00～20:30 (受付17:30)

MJIA9月号でのお知らせと時間が変更致しましたのでご注意ください。

Date & Time : Friday 21st. November, 2025 6pm.-8:30pm.

《会 場》 新宿中村屋 レストラン グランナ

Venue : Restaurant Granna, Nakamuraya

東京都新宿区新宿三丁目26番13号 新宿中村屋ビル 8階

公共交通機関:[JR線をご利用の方] 新宿駅東口から徒歩2分

[東京メトロ丸ノ内線をご利用の方] 新宿駅A6出入口直結

《定 員》 80名(先着順) ※定員数になり次第、締切らせて頂きます。

《参加費》 お一人様 6,000円 (学生3000円) 非会員8000円 立食(フリードリンク)

《お申込みフォーム》 <https://forms.gle/LZzf6u5A8rUW2CzdA>

または右記QRコード



《締切り》 (申し込みおよび振込期限) : 2025年11月14日(金)必着

(Please send an application form and remit participation fee by Fri. 14th. Nov. , 2025)

《参加費振込先》 三菱東京UFJ銀行 八重洲通支店 普通 1120452

公益財団法人日印協会

公益財団法人日印協会

住 所 : 〒102-0083 東京都千代田区麹町1-6 麹町保坂ビル6階

電 話 番 号 : 03-6272-4408 ファ ッ ク ス : 03-6272-4135

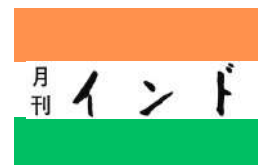
メー ル : partner@japan-india.com

ホームページ : <https://www.japan-india.com>

MJIA(Monthly Japan-India Association)

2025年10月号 (2025年10月27日発行)

発行人 : 齋木 昭隆 編集人 : 末永 繁一 (事務局長)



<法人会員一覧>

2025年10月17日現在 (50音順)

特別法人会員 72社

株式会社 朝日新聞社
ARMS株式会社
医療法人社団 育健会
株式会社伊藤園
伊藤忠商事株式会社
インド日本商工会
ウェブスタッフ株式会社
弁護士法人 瓜生・糸賀法律事務所
エア・ウォーター株式会社
株式会社エイチシーエル・ジャパン
株式会社NTTドコモ
株式会社川内美登子・植物代替療法研究所
キャノン株式会社
クエスト・グローバル・ジャパン株式会社
蔵町工業株式会社
黒崎播磨株式会社
株式会社グローバルヒューマニー・テック
国際縄文学協会
国際スポーツ振興協会
公益財団法人 国際文化会館
小島国際法律事務所
株式会社小松製作所

サントリーホールディングス株式会社
ジェンパクト株式会社
ジャパンベガスツアー株式会社
株式会社シンリョー
スズキ株式会社
住友商事株式会社
株式会社西武・プリンスホテルズワールドワイド
世界開発協力機構
世界芸術文化振興協会
全日本空輸株式会社
総合警備保障株式会社
双日株式会社
第一三共株式会社
第一生命ホールディングス株式会社
大日本印刷株式会社
株式会社大和証券グループ本社
千代田化工建設株式会社
ティー・アイ・シー協同組合
株式会社ディー・エヌ・エー
株式会社TTJ・たちばな出版
一般財団法人東京芸術財団
株式会社東芝
株式会社東横イン
戸田建設株式会社
豊田通商株式会社

鳥飼総合法律事務所
株式会社日新
日本航空株式会社
株式会社日本視聴覚社
日本製鉄株式会社
日本タタ・コンサルタンシー・サービス株式会社
東日本旅客鉄道株式会社
株式会社菱法律・経済・政治研究所
株式会社日立製作所
フィデル・テクノロジーズ株式会社
株式会社フジタ
富士フィルム株式会社
株式会社プレジィール
ポラリス・キャピタル・グループ株式会社
松田総合法律事務所
丸紅株式会社
株式会社MIXI
株式会社ミスズ
三井物産株式会社
三菱商事株式会社
民間外交推進協会 (FEC)
武蔵野メディカルシステム株式会社
株式会社メタルワン
郵船ロジスティクスグローバルマネジメント株式会社
株式会社ライズ・ジャパン

一般法人会員 145社

株式会社IHI
株式会社IPパートナーズ
株式会社アシックス
有限責任あずさ監査法人
アセアン・ワン株式会社
A'ALDA PTE. LTD.
株式会社 安藤・間
アーチ株式会社
いすゞ自動車株式会社
株式会社インフォブリッジマーケティング&プロモーションズ
株式会社INPEX
エア・インディア リミテッド
SBSホールディングス株式会社
株式会社エトワール海渡
株式会社NGC
株式会社FTO
エンビジョンエンタプライズソリューションジャパン(株)
冲印友好協会
株式会社 オリエンタルコンサルタンツグローバル
株式会社オリエンタルランド
オーウィル株式会社
株式会社オープンハウスグループ
加賀電子株式会社
鹿島建設株式会社
カナデビア株式会社
亀田製菓株式会社
関西学院大学
株式会社クボタ
株式会社熊谷組
株式会社 啓文社
株式会社 ケー・アンド・エル
鴻池運輸株式会社
株式会社交洋
株式会社講談社
酒井重工業株式会社
株式会社 サカタのタネ
公益財団法人笹川平和財団
株式会社 サンウェル
山九株式会社
三洋化成工業株式会社
G-8 INTERNATIONAL TRADING 株式会社
JFEスチール株式会社
JGREEN POWER PRIVATE LIMITED
株式会社システムコンサルタント
株式会社静岡ガス
株式会社静岡銀行

有限会社シタール
品川イーストクリニック
有限会社ジーエストラベル
株式会社商船三井
鈴与株式会社
住友重機械工業株式会社
住友電気工業株式会社
住友不動産株式会社
積水ハウス株式会社
セコム医療システム株式会社
ZEUS LAW
生活協同組合コープさっぽろ
医療法人社団創生会 町田病院
SOMPOホールディングス株式会社
大成建設株式会社
ダイキン工業株式会社
株式会社大創産業
株式会社タマイインベストメントエデュケーションズ
学校法人都築育英学園
露木興業株式会社
TMI総合法律事務所
ティー・ディー・パワーシステムズ・リミテッド
株式会社 帝国ホテル
帝人株式会社
株式会社テクノロジーONE
株式会社テレビ朝日
株式会社テレビ東京
株式会社デンソー
TECH JAPAN 株式会社
株式会社TBSホールディングス
株式会社電通
東京海上日動火災保険株式会社
東洋アルミニウム株式会社
東レ株式会社
飛鳥ホールディングス株式会社
トヨタ自動車株式会社
株式会社トピア
内外トランスライン株式会社
株式会社中村屋
株式会社ナベル
株式会社ニトリホールディングス
株式会社ニフコ
西村あさひ法律事務所
日印ビジネス支援協会株式会社
日産自動車株式会社
日精エー・エス・ビー機械株式会社
NIPPON EXPRESSホールディングス株式会社
税理士法人 日本経営
日本信号株式会社
株式会社 日本経済新聞社

日本航空電子工業株式会社
公益財団法人日本交通公社
一般財団法人 日本国際協力センター
日本テレビ放送網株式会社
日本電気株式会社
日本放送協会
株式会社 日本マルコ
日本郵船株式会社
日本電子株式会社
野村不動産株式会社
野村ホールディングス株式会社
株式会社ノリタケカンパニーリミテド
ハイカル ジャパン
株式会社博報堂
株式会社 阪急交通社
阪和興業株式会社
パナソニックホールディングス株式会社
株式会社ピーアイ・ジャパン
BEYOND NEXT VENTURES株式会社
株式会社BS日本
BLS INTERNATIONAL SERVICES LIMITED
公益財団法人フォーリン・プレスセンター
富士通株式会社
株式会社フジテレビジョン
富士電機株式会社
BAKER TILLY ASA INDIA LLP
国立大学法人北陸先端科学技術大学院大学
フォースバレー・コンシェルジュ株式会社
株式会社ボルテックス
前田建設工業株式会社
株式会社みずほ銀行
三井住友海上火災保険株式会社
株式会社三井住友銀行
三菱重工業株式会社
株式会社三菱UFJ銀行
株式会社ミツバ
一般社団法人MEDICAL EXCELLENCE JAPAN
森・濱田松本法律事務所
株式会社ヤクルト本社
株式会社安井建築設計事務所
ヤマハ発動機株式会社
ヤマヤエレクトロニクス株式会社
ユービーエルジャパン合同会社
豫洲短板産業株式会社
読売新聞東京本社
ラリス株式会社
学校法人立命館
YKK株式会社
医療法人社団和風会

JAPAN AIRLINES



新しい翼で、世界の空へ。

JAL 羽田-デリー線、成田-ベンガルール線
好評運航中!



おかげさまでJALグループは、8年連続で
世界最高ランクの5-STAR AIRLINE*に認定されました。

*2025年SKYTRAX社認定



明日の空へ、日本の翼